

会議・打合せ等記録

市長	副市長	部長	次長	課長等	補佐	係長等	担当

報告日：令和元年11月7日

名称	鹿沼市認知症初期集中支援チーム検討委員会
日時	令和元年10月21日（月）19時00分～20時15分
場所	市民情報センター 研修室
出席者	委員 奥山、相馬、下妻、川田、西澤、佐藤、高橋、衛藤、駒橋 大塚健康課長、斎藤介護保険課長 市 早川保健福祉部長、亀山高齢福祉課長、長谷川係長、星野、堀田 オブザーバー 松本 MSW、森嶋 MSW、丸山 SW、橋浦 SW
内容及び結果等	<p>1 開会 亀山課長</p> <p>2 あいさつ 奥山委員長</p> <p>3 委員交代に伴う新委員紹介</p> <p>4 議 事 奥山委員長</p> <p>（1）認知症初期集中支援推進事業について・・・資料1 事務局 星野主任資料1に基づき説明 （質疑・意見）</p> <p>奥山委員長 チームでの支援が必要と判断するのは地区の地域包括支援センターということで良いのか （事務局） 必要に応じて地域包括支援センターから高齢福祉課に相談が寄せられて、両者で両方で協議して判断している。</p> <p>佐藤委員 今日の会議のために（所属の）ケアマネジャーに話を聞いたが、事業のことがまだ良く理解できていないケアマネジャーもいるので、周知の際にもう少し具体的に説明があるといいのかなと思った。</p> <p>川田委員 チーム員会議が1回/月、開催となっているが、この会議については何か事例があった時に随時行っているのか。 （事務局） チーム員会議の進め方をどう行っていくのか試行錯誤だった。ほぼ毎月事例があるなしにかかわらず、チーム員会議というのは開催していた。今年度については事例が上がってきたときに随時開催するような方向に変更している。この方法が良いのか検証はしていかななくてはならない。</p> <p>奥山委員長</p>

<p>チーム員会議以外の会議で2つのチーム合同のものはあるのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>チーム員の窓口となっている担当者間で話し合う機会はあったが、チーム同士の情報の共有は必要とも感じている。</p> <p>(2) 平成30年度事業報告・・・資料2</p> <p>(3) 今後の事業推進について・・・資料3</p> <p>事務局 星野主任資料2, 3に基づき説明</p>
<p>駒橋副委員長</p> <p>チームに回ってくるケースは残念ながら少ないが、それ以前に比べて地域包括支援センターの人と本人や家族が直接鹿沼病院の外来に来てもらって治療の導入ケースも増えてきている。また、鹿沼市は介護認定審査会に医師会の先生方が参加してくれている。他の地域よりも地域内の認知症について、知識があるので(かかりつけなどで)対応してくれている先生たちがそれなりにやってくださっているので比較的本当に困っている人はあまりいないのかもしれない。</p>
<p>佐藤委員</p> <p>鹿沼市の事業集計を見ても問題事例、入所という形多いようなので、もう少し早い段階での相談をチームにあげられれば件数も増えてくると思う。チームに相談する手続きは難しいのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>ケースに上げることに関しては、初期集中支援推進事業で決まったフォーマットの様式がある、その様式で上げてもらうことになっている。</p> <p>地域包括支援センターの手間になるようであれば、相談してケースを上げやすい仕組みを考えていきたい。</p>
<p>西澤委員</p> <p>いざ認知症と思われる方を目の前にしてどう対応して良いのかわからない。そこを開いていくに触れにくい。すごく難しい。初期とここに書いてあり、大切かもしれないが初期の人と関わるのはとても難しい。</p>
<p>衛藤副委員長</p> <p>認知症の相談などではなく、日常生活に対してどうですかとか、つながりを作っていくって、繰り返すことでだんだん開いてくる。</p> <p>心配をしているとか、生活のことを少し聞きたいなど、そういう姿勢でいざ問題が出てきたときに、相談につなげるなどの支援ができるようになると思う。</p>
<p>奥山委員</p> <p>人間関係が土台にならないと、お互いに言いたいことも言えないし、相談したいことも相談できないということで、基本的な人間関係を作ることが必要ではない</p>

	<p>か。この初期集中支援チームも素晴らしい制度ではあると思うが規定が厳しかったり、統計をとるために事務量が多かったりなどがあるのではないか。なるべくフレキシブルな制度であってほしい。</p> <p>(事務局)</p> <p>本来やるべき業務に手が回らなくなってしまうとかそういったことも考えられるので、できるだけ、提出書類等は柔軟に最小限にできるところはしたい。</p> <p>また、事業を実施する上で測れないこと、例えば駒橋副委員長の意見でもあったように、実際に病院と地域包括が別のケースで連携を取りやすくなったなどの効果もあるというなど、機会があれば県にも意見としてあげたいと思う。</p> <p>奥山委員長</p> <p>今回の事業とは離れるが、台風 19 号もあり、災害が起きた時の認知症の方、独居の方など非常に困難なことが起こると思うが、そういう方に対する支援について、行政としての取組は。</p> <p>(早川保健福祉部長)</p> <p>今回の台風 19 号の被害は極めて甚大であり、要支援者名簿というのを自治会に対して民生委員さんや自治会長、みまもり隊などを通して作成してもらっている。ただ、被害の状況が大きく、自分の身を守るのが最優先で、他者を助けるとか、声をかけられる状況でなかったということも起きた。後日、他の人は避難できているかどうかなど行政でやっていることもあった。どこまで自分ができるのかできないのか、名簿は作成しているが、結局、いろんな人が連携を取りながら確認しないと、結果的に避難が遅れたという人もいる。名簿は作成していても、なかなか確認ができなかったり、どうやって助け出すのかなど、様々な課題が残ったところだと思う。</p> <p>奥山委員長</p> <p>今回、事業の色々な課題、問題点が皆様の中からあがってきた。今後、この初期集中支援チームがより良い形で定着していくとよいと思う。</p> <p>閉会</p>
配布資料	別紙のとおり
記録者	星野
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第 2 条に基づく審議会等の公開状況 (該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要)	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
(公開の場合) 傍聴人数	0 人

